

平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	ナショナルバイオリソースプロジェクト		担当部局庁	研究振興局	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成14年度～未定		担当課室	ライフサイエンス課	ライフサイエンス課長 板倉康洋		
会計区分	一般会計		政策・施策名	科学技術の戦略的重点化 区-2 科学技術振興のための基盤の強化			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	知的基盤整備計画について(平成19年9月4日科学技術・学術審議会技術・研究基盤部会)、新たなライフサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフサイエンス委員会)、第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	作製された実験用動植物等を中核機関に収集するとともに、厳格な管理体制の下で効率的な保存を行い、実験の再現性を担保するような遺伝的に安定した質の高い実験用動植物等を研究機関に提供することにより、ライフサイエンス研究の基盤を整備する。また、収集・保存・提供等に係る技術開発や、系統・特性情報、ゲノム配列等の遺伝子情報を付加し、実験用動植物等の独自性・先導性を高める。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	大学、研究機関等を対象に実施機関を公募し、実験用動植物等の収集・保存・提供を行う拠点の体制整備やバイオリソースの系統・特性情報、ゲノム配列等の整備、保存や品質管理の技術開発、バイオリソースの所在情報や遺伝情報のデータベースの構築を実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求
		補正予算	1,338	1,325	1,425	1,376	1,376
		繰越し等	-	-	-	-	-
		計	▲ 9	10	-	-	-
	執行額	1,329	1,335	1,425	1,376	1,376	
	執行率 (%)	100.0%	100.0%	102.0%(※)			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	実験動物(ショウジョウバエ)の系統保存数(系統数)及び実験植物(イネ)の系統保存数(株数)	成果実績	系統数株数	42,182 17,967	42,750 18,981	49,963 20,007	-
		達成度	%	-	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	機関数及び課題数	活動実績 (当初見込み)	機関数	68 35	65 33	72 30	-
		課題数	() () () ()				
単位当たりコスト	20(百万円/機関)		算出根拠	20(百万円/機関) =(平成24年度執行額:1,454百万円)/(機関数:72)			
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	諸謝金	0.2百万円	0.6百万円				
	職員旅費	1.1百万円	0.1百万円				
	委員等旅費	0.6百万円	0.7百万円				
	庁費	0.2百万円	-				
	科学技術試験委託費	9.4百万円	10.1百万円				
	研究開発施設共用等促進費補助金	1,364.3百万円	1,364.3百万円				
	計	1,375.7百万円	1,375.7百万円	※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない。			

事業所管部局による点検

項目		評価	評価に関する説明			
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	・第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日閣議決定(IV.4.(4))の「知的基盤の整備」に資する施策であり、重要なバイオリソースを戦略的に整備し、ライフサイエンス研究の強化や国際的優位性の確保に貢献を目指す本事業は、優先度が高く、国が責任を持って実施する必要性がある。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○				
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	・公募により実施課題を募集し、公正なプロセスで課題選考を実施している。 ・利用者は、リソース提供にかかる運搬費等の実費を負担している。 ・全ての実施課題について、業務計画書を精査し、適切な支出を行っている。 ・支出先・使途を把握し、備品が適切に購入されたか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を実施している。			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○				
	単位当たりコストの水準は妥当か。	○				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○				
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	—					
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	・全ての実施課題について実績報告書を提出させ、必要な場合には運営委員会等への出席により、事業開始時の当初計画と比べた進捗状況や今後の展望について毎年度確認し、効率的・効果的に実施している。 ・成果目標を達成するために必要な活動実績(機関数、課題数)を満たしている。 ・本事業で整備したリソースの提供先からは、毎年多数の論文が発表されている。			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○				
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等に適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	—				
	事業番号	類似事業名		所管府省・部局名		
点検結果	<p>○交付した本補助金については、設備等が適切に購入されたか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を厳格に実施することにより、支出先・使途を確認・把握するとともに、事業の進捗状況を踏まえて計画の見直しを行うなど必要経費の効率化を図っている。</p> <p>○実績報告書の提出、研究機関へのサイトビジット等により、事業開始時の当初計画と比べた進捗状況や今後の展望について毎年度確認している。</p> <p>○バイオリソースの収集・保存・提供を中核拠点において一元的に行うことにより、効率的かつ適正な品質管理が図られるとともに、バイオリソースの利用に際してのアクセスも容易となっている。更には、高品質のバイオリソースを提供することにより再実験等の無駄を省くことで研究費をより有効に活用できる効果もある。</p> <p>○バイオリソースの保存に係る運営コストを削減するための凍結保存等の技術開発や、一度途絶えると二度と復元できない貴重なバイオリソースを広域災害等から保護するためのバックアップの整備等をより促進している。</p>					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業内容の改善	<p>1. 事業評価の観点: 本事業は、ライフサイエンス研究の基盤として、遺伝的に安定した質の高い実験用動植物の提供等を行う公募型事業であり、長期継続事業等の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見: 本事業は、過去のレビュー結果等を踏まえ、平成21年度に補助金化し、23年度において予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことは評価できる。なお、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、事業内容を再点検すべきである。</p>					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
縮減	継続的に事業を行っている課題については、事業の進捗状況を踏まえて計画の見直しを行うなど必要経費を精査し、物品費、旅費等の経費の効率化を図り、概算要求額に▲15百万円を反映した。					
備考						
※ 年度内に同一(目)内(研究開発施設共用等促進費補助金)で流用増して執行。						
<p><政策評価書> ○政策評価書記載ページ: http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1291037.htm</p> <p><関連ホームページ等> ○事業のホームページ: http://www.nbrp.jp/</p>						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0246	平成23年	0236	平成24年	0249

文部科学省

1, 454百万円

諸謝金 0.4百万円
職員旅費 1.0百万円
委員等旅費・庁費0.8百万円

を含む

※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致し

作製された実験用動植物等を中核機関に収集し、また厳格な管理体制の下で効率的な保存を行い、実験の再現性を担保するような遺伝的に安定した質の高い実験用動植物等を研究機関に提供することにより、ライフサイエンス研究の基盤を整備する。
また、収集・保存・提供等に係る技術開発や、系統・特性情報、ゲノム配列等の遺伝子情報を付加し、実験用動植物等の独自性・先導性を高める。

[公募・補助]

A. ナショナルバイオリソースプロジェクト
: 1, 451百万円
大学・独立行政法人等(全72機関)

実験用動植物等の収集・保存・提供体制を行う拠点の整備やバイオリソースの系統・特性情報、ゲノム配列等の整備、保存や品質管理の技術開発、バイオリソースの所在情報や遺伝情報のデータベースの構築を実施。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A. 大学共同利用機関法人自然科学研究機構			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
その他	外注費(飼育管理等業務)	101			
物品費	設備備品費(サル個別ケージ)等	28			
人件費・謝金	研究者及び研究補助者	17			
旅費	国内旅費、外国旅費	4			
	※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない。				
計		151	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	ライフサイエンス研究用ニホンザルの飼育・繁殖・供給	151	—	—
2	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進	148	—	—
3	国立大学法人京都大学	ラットリソースの収集・保存・提供	97	—	—
4	学校法人東京女子医科大学	線虫欠失変異体の収集・保存・提供	90	—	—
5	国立大学法人京都大学	ライフサイエンス研究用ニホンザルの飼育・繁殖・供給(大型飼育施設でのニホンザルの繁殖・育成事業)	71	—	—
6	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	ショウジョウバエ遺伝資源の総合的維持管理および提供	58	—	—
7	国立大学法人名古屋大学	ニワトリ・ウズラリソースの収集・保存・提供	47	—	—
8	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	メダカ先導的バイオリソース拠点形成	43	—	—
9	国立大学法人九州大学	カイコバイオリソースの収集・高品質化と効率的保存・供給体制の整備	42	—	—
10	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	モデル原核生物(大腸菌・枯草菌)遺伝資源の整備と活用	41	—	—